



# なべやま小 だより



《なかよく 勉強 やる気 まっぐら 笑顔も満開》

2023. 10. 30 校長

## 《サヒメル(三瓶)遠足》

10月20日、あいにくの雨模様でしたが、1～4年生が遠足で「三瓶自然館サヒメル」に出かけました。4年生が考えた「全員遊び」を予定していましたが、外活動ができなかったため「プラネタリウム視聴」に変更し、「満天の星空」を楽しみました。みんなで弁当を食べた後は、グループごとに館内を見学して回りました。子ども達も興味津々の虫や動物について、たくさん学習したり触れたりできました。

雨にも負けず、元気に楽しむ事ができた遠足でした。



## 《表彰をしました》

先日、全校朝礼で今学期2回目の表彰式を行いました。高学年が出場した雲南市陸上競技大会での入賞者と、「歯と口の健康ポスターコンクール」入賞者の表彰でした。

毎年なべっ子が参加している「歯と口の健康ポスターコンクール」では、今年も1年生2人のダイナミックな作品が入賞しました。

入賞者のみなさん、おめでとうございます！

### 【雲南市陸上競技大会】

混成 400mリレー 1位 ○○○○さん、○○○○さん  
○○○○さん、○○○○さん  
5位 ○○○○さん、○○○○さん  
○○○○さん、○○○○さん

男子ジャベリックボール投げ 3位 ○○○○さん

### 【島根県歯と口の健康ポスターコンクール】

低学年の部 1位 ○○○○さん、2位 ○○○○さん



雲南市読書感想文コンクール受賞作文  
《最優秀賞》

ぼくはどんどん良くなっている 「十二番目の天使～小さなチャンピオン」

鍋山小学校5年 ○○○○

なぜかぼくの家と同じ題名の本が二冊ありました。よく見ると一冊はジュニア版と書いてありました。読書感想文用の本を探していたぼくに母が、兄達が小学生の時に読んだ事を教えてくれました。ぼくは、本を読むのが苦手なのでずいぶんやんだけど、表紙の野球の守備をしている男の子の絵を見て気になったので、少しだけ読む事にしました。

ぼくが読んだ「十二番目の天使」という本は主人公が男の子で野球をする話だと思っていたけど、主人公は四十才を前に有名人になって、家族とふる里に帰って来たジョンという男の人でした。引っこしてすぐに妻と息子を事故で亡くして自殺しようとする場面から始まりました。タイミングよく友人のビルがジョンの所に来て、！トルリーグのかんとくのいらいをして、かんとくになったジョンが十二人の選手とゆう勝を目指し、その中でティモシーという少年に関わった事でジョンの心が元気になっていく話でした。

ティモシーはぼくと同じ十一才で、野球をやっている事、足がおそい事、練習でうまくいく事が少ない事、努力する事などがビックリするほどぼくと重なりました。ティモシーは自分にも仲間にもよく、

「絶対、絶対、絶対、あきらめるな。」

「毎日、毎日、あらゆる面で、ぼくはどんどん良くなっている。」

と言っています。ぼくは、ドキッとしました。ぼくがうまくいなくて困っている時に、

「大丈夫。今上手いかわなくても続けていたら必ず上手くなるから。少しずつだけとちゃんと良くなっているから。」

と、兄が何度か言ってくれた事がありました。ぼくはうれしくて、がんばろうと思った事を思い出しました。かんとくからも、

「少しずつだけど、ゆっくりだけど、上手くなっている。足りないのは自信と気持ちだけ。」

と何度も言われて、もっとがんばろうと思いました。この前、野球の大会の決勝とぼくがやっている和太鼓の公演の日が重なって、そのことをかんとくに話した時、かんとくが、

「太鼓のステージでおまえの与えられた仕事をやって来い。おれがお前の応援をしてやる。お互いの持ち場でせいっぱいやろう。」

と言われて心が熱くなりました。ぼくは、六月から神楽をやり始めました。そこでも、

「お前なら出来る。お前ならやれる。」

と、何度も言ってくれる人がいます。神楽も野球もぼくが出来るようになると一緒に喜んでくれました。

この本を読んで、ぼくの周りにいつも応援してくれる人がいる事に気がつきました。ティモシーが病気で死んでしまった場面は悲しくてなみだが出ました。ぼくは元気なので、これからはいろいろな事に挑戦して、自分のペースでせいっぱいがんばっていきたいと思います。

気がついたら本を全部読んでいました。

## 雲南市読書感想文コンクール受賞作文

### 《優秀賞》

### 好きなことをつづきたい

「化石のよぶ声がきこえる」

鍋山小学校3年



「うわあ、大きくてカッコいいなあ。」

ぼくは、夏休みに、奥出雲多根自然はく物館に行きました。入ってすぐに、大きなアロサウルスというきょうりゅうの化石がありました。その化石を見上げながら、きょうりゅうのはく力にびっくりしました。

ぼくは、「化石のよぶ声がきこえる」という本を読みました。はく物館できょうりゅうの化石を見て、もっと化石のことを知りたくなったからです。

この本は、きょうりゅうハンターのウェンディさんの話です。ウェンディさんはほかのみんなが気づかない、すてきなものをたくさん見つけることができる人です。

ウェンディさんは、子どものころからたからさがしが好きで、外に出かけてめずらしい物をつづめていました。ぼくも小さいころは、石をさがしたり、地面をほったりするのが好きだったので、ウェンディさんと少しにているなと思いました。

ウェンディさんは十二才の時に遠足でサンゴの化石のかけらを見つけてから、化石をさがすようになりました。そしてもっと化石のことを知りたいたいと思って、化石をクリーニングするぎじゅつを学んで、それを自分の仕事にする事に決めました。

家の近くで、今までだれも見つけないきょうりゅうの化石を見つけました。このきょうりゅうの名前は、ウェンディさんが見つけたから「ウェンディケラトプス」になりました。きょうりゅうに自分の名前がついてすごいなと思いました。

さいしょは化石のことがもっと知りたくて読んでいたけど、読んでいるうちに、ウェンディさんのことが気になりました。

なぜかという、子どものころからずっと化石をさがすのが好きで、大人になって、化石にかかわる仕事についたからです。

ぼくは、ウェンディさんをうらやましいと思います。好きなことをずっとつづけているからです。好きなことだからど力してずっとつづけて出来るのかなとも思いました。

本を読んで、ぼくも、ウェンディさんみたいに好きなことをつづけたいと思いました。

ぼくの好きなことは野球です。三才の時からやっています。始めたのは、お兄ちゃんの野球の練習について行って、楽しそうだなと思ったからです。

でも、楽しいことばかりではありません。夏の練習はとてもあついです。学年が上がるにつれて、練習はどんどんきつくなりました。し合で思うようにできなくて、くやしいこともあります。でも、やめようと思ったことはありません。友達といっしょにする野球はとても楽しいし、野球が大好きだからです。

ぼくは、きっとこれからも大好きな野球をつづけます。いっぱい練習をして、いつかプロ野球で活やくするせん手になりたいです。

自分の好きなことを仕事にしたウェンディさんみたいになれたらいいな。

## 雲南市読書感想文コンクール受賞作文 《優秀賞》

### 小さくてもだいじょうぶ

「大きい1年生と小さな2年生」

鍋山小学校2年



「1年生みたい」

今年、入学してきた一年生に言われて、びっくりした。わたしは、「どうしてそんなことをわざわざ言うのかな。」と心の中でおこった。わたしは、二年生だけど、しんちょうがひくい。だから、そう言ったのかな。

このことを思い出したのは、「大きい一年生と小さな二年生」という本を読んだから。「小さな二年生」って、「わたしとにている。」と思って読みはじめた。本を読んだ後に、おかあさんと話をしていると、おかあさんも子どもの時に、小さかったこと、それがすごくいやだったことを話してくれた。

「おねえちゃんなのに、小さかったから、いもうとと、まちがわれて、いやだった。」

おかあさんが、小さいことを気にしていたなんて、びっくりした。今は、大きくて、やさしくて、おりょうり上手なおかあさんだから。

わたしは、みんなが思っているより、小さいことを気にしたことがない。おとうとたちより大きいし、小さいことでこまったこともないから。だから、小さいことを気にしていた「あきよ」に言ってあげたい。

「あきよは、やさしくて、お友だちのことを大切にしているよ。」

「ひとりぼっちのまさやを気にしてあげるやさしい心、いじめられている子をたすけてあげる強い心があるから、しんちょうなんて、かんけいないよ。だいじょうぶ。」

わたしは、しんちょうなんて、かんけいないと思う。「あきよ」みたいに、心がしっかりしていれば、小さくても大きくてもかんけいないんじゃないかな。見た目で人をきめつけるのは、よくないと思う。大人だって同じだよ。小さい時のおかあさんに会えたら、

「だいじょうぶだよ。ごはんを食べて大きくなるし、やさしくて、すてきなおかあさんになるよ。」

と言ってあげたいな。

3人とも、本の登場人物と自分のことを重ね合わせて、感想文を書いています。登場人物の行動や考えから学んだこと、そこから自分がこれからどう行動しどう考えていくべきかを、自分の言葉でしっかりと表現しています。強い意志とポジティブな気持ちを感じることができる、3人の感想文です。

鍋山小では10月30日から11月22日までを「読書月間」としています。今まで取り組んできた「朝読書」に加え、「読書ビンゴ」や「ペア読書」など、本に関する活動を行う予定です。3人の感想文や読書月間の取組が、なべっ子の読書習慣向上につながるよう願っています。